

2 観光振興の取り組み

(1) 神戸における着地型観光の推進

平成22年度より、地域関係者の連携による神戸港エリアの活性化に取り組んでいる「YOKOSO みなとまち神戸コンソーシアム」（事務局：神戸運輸監理部）では、平成25年度事業として、平成24年度に引き続き、みなとまち神戸の魅力を活かしてカップルの集客を促進し、また末永く神戸に親しんでいただけるリピーターを確保することを通じて、地域のにぎわいを創出することを目的とした「みなとまち神戸ロマンティック事業」に取り組んだ。同コンソーシアムの下に「みなとまち神戸ロマンティック事業WG」を設置し、同事業に係るコンセプトや具体的な事業のあり方等について関係者間で精力的な議論を行った。

同WGとリンクする形で、「観光地域動向調査」として、神戸港エリアの観光客の動向等に係る現状把握及び魅力再発掘を踏まえた課題とその解決の方向性の整理を行うとともに、この整理を踏まえた「みなとまち神戸ロマンティック事業」のコンセプトのさらなる磨き上げ等を行い、同事業のさらなる充実を図った。

さらに、神戸を中心に観光人材育成に取り組んでいる神戸夙川学院大学及び神戸市と同コンソーシアムが共同で平成23年度に設立した「神戸・ニューツーリズム事業実行委員会」では、平成25年度事業として、神戸港エリアの街歩きと観光船によるクルージングを関西在住の外国人に体験してもらうインバウンドモニターツアーを2回実施し、この中で外国人にとっての神戸港エリアの「ロマンティック」とは何かということアンケート調査で確認するなど、「みなとまち神戸ロマンティック事業」がより多面的な魅力を持つものとなるよう、関係者が連携して取り組んだ。

(2) 瀬戸内海観光連携推進会議による瀬戸内の観光活性化

平成24年のNHK大河ドラマに「平清盛」が決定したことを受けて、近畿運輸局、神戸運輸監理部、中国運輸局、四国運輸局、九州運輸局の西日本広域の連携組織として平成23年7月に設立された「平清盛」瀬戸内連携推進会議については、大河ドラマの終了を受けて平成25年4月から「瀬戸内海観光連携推進会議」と名称を改めて引き続き瀬戸内海の観光活性化を図ることとなった。平成25年度事業としては、平成25年6月2日にフェリー「さんふらわあ こだると」の船上において第1回会議を開催し、「瀬戸内海観光宣言」を採択したほか、瀬戸内海の島々等に寄港するクルーズの推進を目指す「瀬戸内クルーズセミナー」及び「おもてなし実地研修」の広島県福山市鞆の浦における開催、既存航路等を活用した瀬戸内海の新たな滞在型周遊観光ルートを開拓する「瀬戸内海モデルコース構築事業」の実施、瀬戸内海地域における寄港地の概要、セールスポイント等を掲載した「瀬戸内クルーズ寄港地紹介マップ」の更新等に取り組んだ。

(3) 観光人材の育成

地域づくりを担う人材や観光産業が求める人材の育成を図るため、観光人材育成連携協定を締結している流通科学大学の学生を対象に、神戸港や瀬戸内海沿岸地域の観光や歴史、海運や港湾運送等の流通、生活文化等について多彩な視点から学ぶ特別講義「神戸・瀬戸内学」（全15回、2単位）を開講しているが、神戸運輸監理部は「地域主軸の観光政策」について2コマを受け持ち、平成26年1月に企画課長が講義を行った。